

ソーシャルワークの専門職性研究の動向と課題

—国内文献の検討を通して—

○ 別府大学 日和恭世 (7185)

キーワード3つ：専門職性，専門性，専門職制度

1. 研究目的

「ソーシャルワークは専門職か？」との問いは、Flexner (1915) によって投げかけられたものである。この問いに対して Greenwood (1957) は「ソーシャルワークは専門職である」と主張しているが、果たして日本においてソーシャルワークは専門職と呼ぶことができるのであろうか。この問いに答えるためには、日本におけるソーシャルワークの専門職としての特性、すなわち専門職性を明確にする必要があると考える。

そこで、本研究では、日本におけるソーシャルワークの専門職性を明らかにするための第一段階として、日本におけるソーシャルワークの専門職性に関する研究をレビューし、日本においてソーシャルワークの専門職性がどのように論じられているか、その傾向を明らかにするとともに、専門職性研究の今後の課題を考察することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、以下の手順で実施した。

(1) 論文検索サイト CiNii を用い、論文検索にて専門職性に関する論文を検索した（平成26年6月28日現在）。キーワードは「専門職性」「ソーシャルワーク」、「専門職性」「ソーシャルワーカー」、「専門職性」「社会福祉士」、「専門職性」「精神保健福祉士」、「専門職性」「社会福祉専門職」とした。その結果、「専門職性」「ソーシャルワーク」は10件、「専門職性」「ソーシャルワーカー」は8件、「専門職性」「社会福祉士」は4件、「専門職性」「精神保健福祉士」は3件、「専門職性」「社会福祉専門職」は0件であった。そのうち、重複しているものが6件あったことから、最終的に19件を参照した。

(2) (1)の論文の引用文献、参考文献を参考に、ソーシャルワークの専門職性について論じている主要著書4件を抽出した。

(3) 最終的に論文19件、著書4件の計23件を精読し、専門職性の定義、研究目的、研究対象、研究方法、専門職性の内容を整理した。その後、これらの内容を批判的に考察し、現在の日本における専門職研究の課題を明らかにした。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会の研究倫理指針に基づいている。文献研究であるため、文

献は原典をあたり、引用部分には特に注意を払った。

4. 研究結果

分析対象とした23件の先行研究を概観すると、専門職性の定義に関しては、①自身で専門職性を定義づけているものが8件、②他の先行研究の専門職性の定義を紹介し、それをもとに論を展開しているものが6件、③専門職性の定義には触れていないものが8件、④専門職性の定義の曖昧さには言及しているものの、専門職性の意味については論じていないものが1件であった。また、研究目的については、専門職としての要件について論じているものが5件、ソーシャルワーカーの専門職性の評価尺度について論じているものが5件、ソーシャルワーカーの専門職性に関する意識について論じているものが5件と同数であり、次いでソーシャルワーク教育や研修について論じているものが4件であった。研究対象に関しては、特に対象を限定せず、ソーシャルワークもしくはソーシャルワーカー全体について論じているものが12件と最も多く、次いで学生を対象としているものが多かった。研究方法は、理論研究を行っているものが11件、実証研究のうち量的調査を行っているものが10件となっており、質的調査を行っているものは1件のみであった。専門職性の内容については、主に海外の文献を紹介しているものが4件、日本の実態について論じているものが19件であった。

5. 考察

秋山(2000)は、専門性について論じる際には専門性、専門職性、専門職制度の概念を区別する必要があると指摘しているが、今回分析対象とした先行研究では、必ずしも専門職性という概念が定義されていないものや、専門職性というキーワードを用いながらも専門性や専門職制度について論じているものもあり、専門職性という概念が多様な意味で用いられていることが明らかになった。

今回分析対象とした先行研究では、専門職性に関する外形的条件について論じているものが多く、専門職性の具体的な中身に言及しているものは少なかった。また、専門職性の中身について論じている数少ない研究のほとんどが意識調査であったことから、今後は、ソーシャルワーク実践から具体的な専門職性を導き出す研究も必要ではないかと考える。

さらに、専門職性の向上に関して、南(2006)の研究では、単に経験を積み重ねるだけでなく、自身の経験を言語化し、振り返りや意味づけを行い、専門職としての自己を理解することが専門職性の獲得につながるということが明らかになっていることから、ソーシャルワークの専門職性を獲得し、向上させるためには、リフレクションという営みを積極的に取り入れることが求められるのではないかと考えられる。

今後は、これらの課題をふまえ、ソーシャルワーク実践から専門職性の具体的な中身を明らかにするために、ソーシャルワーカーを対象とした質的調査を実施していきたい。